



## 第50回神変大菩薩碑建立記念祭

# 半世紀にわたる御神徳に感謝



霊峰富士は、古来より修験道の聖地であり、修験道の開祖として尊敬される役行者が修行を積まれたといわれている。没後、光格天皇より神変大菩薩の諡号を賜った役行者について、金剛さまは「富士山を開かれたのは役行者だ。その大恩人に感謝できないものは、富士の裾野で成功することはできないよ」と、先覚者である山梨富士支部長・山本仁三郎氏にご指導された。金剛さまの御心に従った山本氏は、役行者の素晴らしい妙法がすべての人に及んで、その人たちが幸せに導かれるようにとの願いを込め、神変大菩薩の御尊影を石に刻んで建立。山梨県富士吉田市北口本宮富士浅間神社の境内において昭和45年6月19日に除幕式が執り行われ、現在も毎年6月19日に本部主催、甲信教区協賛のもと行われている。大きな節目となる第50回目を迎えた神変大菩薩碑建立記念祭には、好天に恵



御威徳を偲び、真心からの勤行が新緑映える神社林間に響いた

まれる中、岡野英夫理事長はじめ、来賓各位、地元甲信教区や関東地区会員、特に東京地区から女性講座かたばみ会（首都圏女性の勉強会）がバス2台、東京第6教区がバス1台で参加し、総勢300名を超える参加者があった。

午前11時より開式の辞、修祓、献饌、岡野英夫理事長による祝詞奏上の後、代表者による玉串奉奠、勤行と続いた。

岡野理事長は挨拶で「この祭典は50年前に北口本宮富士浅間神社の篤いお心により、この境内地に金剛さまの思いでもあった神変大菩薩碑を建立する許可を頂いたことから始まった。私たちが授かっ

ている諸札の偉大なるおはたらきやその奥にある霊妙な威神力は、神変大菩薩や弘法大師から金剛さまが頂いた御力であり、そうした尊いお蔭を私たちは受けていると思います。令和の御代の第一回目を今日に迎え、今後も引き継いで参りましょう。そして、多くの皆さんと共に祝いしていきましょう」と述べた。続いて当神社の上文司厚富司から祝辞を頂き、地元教区を代表して白木好雄甲信教区長が挨拶を述べた。

式典終了後は直会があり、地元会員の心づくしの料理を堪能し、和やかな雰囲気の中、参加者は帰路についた。

## 岡野英夫理事長が泉山にて 上皇・上皇后両陛下を奉送迎

上皇・上皇后両陛下は御退位の報告のため、6月12日、京都・御寺泉涌寺に行幸啓あそばされ、山内の孝明天皇山陵に対して親謁の儀を行われた。この行幸啓に際しては、泉涌寺からのご案内により、本会を代表して岡野英夫理事長が奉送迎に参列させていただいた。

上皇・上皇后両陛下は今回の御参拝を以て御退位に関わる諸儀式をすべて終えられた。

## 津之守弁財天・夏祭

# 恵みの雨の中、夏祭を催行



恵みの雨の中、7月1日の報恩日行事に先立ち、正午より津之守弁財天夏祭が執り行われた。服部宇之輔常任理事をはじめ、稲子知義崇敬会会長、本部役員、首都圏各支部長、会員や荒木町関係者らが参列した。式典では、服部常任理事が祝詞を奏上した後、玉串奉奠、拝礼行事が行われ、参加者一同、日頃のご守護に対する感謝を捧げた後、参列者は金丸稲荷を参拝した。

東京第2教区・女性部創立40周年記念大会

# 女性部40年の歩み



6月30日、東京第2教区女性部創立40周年記念大会が本部道場にて開催され、約110名が参加した。

同女性部は同教区の先覚者で元常任理事であった小島正五郎氏の「これからは女性の勉強が大切」とのご指導で昭和54年から東京第2教区女性講座としてはじ



まった。  
当日は、岩田有加女性部長の挨拶、坂崎康宏教区長挨拶に続いて、来賓の原島正光地区相談役、初代役員の一人名だった立川柴崎支部・小田マチ氏が祝辞を述べた。体験発表では、日本橋中央支部・榎本道江氏、勝鬨支部・白石裕美乃氏の2

名からご供養、御五法修業、家族を通して得た体験の発表があった。

講話では、岡野英夫理事長より「金剛さまはご主人の知恵が足りなければ、妻が知恵を足して世に送り出せと言われた。女性というのは生み育てる役目」と女性としての大切な役目について伝えられた。その後、設立当初から携わってきた先覚者が試行錯誤を繰り返しながら築いてきた40年の歩みを岩田豊美常任理事が振り返った。

第2部直会は、御茶ノ水のホテル東京ガーデンパレスに場所を移し、中町恭子副担任部長の開会挨拶から始まり、岡野理事長挨拶、坂崎教区長による乾杯、カラオケ大会、抽選会と楽しいひと時を過ごし、最後に万歳三唱で盛大な祝宴がしめくられた。

名古屋西味鏡支部創立30周年記念感謝会

## ともに節目を祝す



式典では、支部長挨拶の後、親支部の黒川勝名誉支部長、近藤支部長夫妻へ花束贈呈、服部指導員の記念講話、会員代表が決意を発表し第1部終了。第2部は青年部のアトラクション、大抽選会で大いに盛り上がった。

名古屋西味鏡支部では6月9日、創立30周年記念感謝会を支部御神前にて開催し、服部宇之輔指導員が本部出講、多数が集った。当支部は、平成元年10月に名古屋仲田支部より初代の近藤貞男支部長が分離設立し、同23年10月に妻の園子支部長が二代目を継承し現在に至っている。

名古屋第1教区・女性部

## 道場氏神清掃と部会を行う



5月17日、名古屋第1教区女性部は恒例となる熊野社の清掃奉仕を25名で行った。社殿の拭き掃除や落ち葉掃き、草取りを行い、終了後は道場で土地供養を厳修。午後より行事の反省や感想を出し合い、女性部活動の目的を新たにした。

### 各地で健康指導研修開催

滋賀教区・健康指導研修会

## 健康指導の担い手を育てる



滋賀教区では滋賀湖東支部において健康指導研修会を6月8日に開催、津村和範指導員が本部出講、34名が参加した。

当研修会は「足心道、掌心法の基本を学び、

支部や家庭、地域へと健康指導を伝える人を育てる」を目標とし、当研修参加者有志による「滋賀足もみ隊」の活動は各支部へ広がりを見せ、介護施設や老人ホームなどで喜ばれている。

当日は足心道や掌心法の基本と技術の習得の他、簡単に出来て効果が高いタオルを使ったストレッチなど、健康指導初心者にも理解しやすく活用できる内容を中心に研修を行った。

中部圏域・健康指導研修会

## 支部で健康指導の活用を



中部圏域（愛知・名古屋第1・名古屋第2）では6月16日、健康指導研修会を中部道場にて開催した。本部より津村和範指導員、滝沢寧指導員が出講し64名が参加した。当

研修は「支部や家庭、地域で即実践、お導きに活用できる技術を習得する」ことがねらいであり当日は、健康指導を活用しようと各支部長や支部健康担当員が参加した。

研修では、3分間体操と体位矯正法についてそれぞれの概論の基本を学び、実際にお導きなどの現場で活用できることを目指したプログラムが組まれ、一同、熱心に実技に励んだ。



静岡教区

# 一碧湖神社春季大祭



静岡教区では5月26日、静岡県伊東市にある一碧湖神社にて第102回一碧湖神社春季大祭を挙。本部より木村正則指導員が出講し、127名が参加した。

祭典は、鈴木隆司教区長の祝詞奏上、木村指導員と代表者による玉串奉奠、小野達也伊東市長の来賓祝辞、木村指導員による記念講演、最後に万歳三唱をもって終了となった。

直会では、各支部で紙相撲を持ち寄り、支部対抗紙相撲大会が開催され、楽しいひと時を過ごした。

スポットライト

# 錬心館職員2名が昇段を果たす

剣道を通して、地元北本市や近隣の青少年たちの健全な育成に貢献している解脱錬心館。当職員である2名が日頃の稽古の成果を実らせ、吉田潤主任が七段に、小林竜也職員が六段に、それぞれ昇段を果たした。審査会はハンナリーズアリーナ（京都市体育館）にて、六段は4月29日、七段は同30日に、全日本剣道連盟主催により開催され、共に合格率がわずかに2割という超難関を突破した。剣道との出会いは、吉田さんは小学2年生、小林さんは小学1年生の時。以来、剣道に打ち込んできた。



吉田さんは「田中宏明館長が持つ最高段位の八段を目指して日々稽古し、剣道の良さを伝えて門下生を増やしていきたい」、小林さんは「八段の取得資格を得るためにも、まずは七段の昇段を目指したい。また、先生方を見習って一流の指導者になりたい」と、それぞれ意気込みを語った。

## 各地で女性の学び活発に

茨城教区

# 御霊地の尊さを再確認



茨城教区では6月8日、女性のつどいを御霊地にて開催し、40名が参加した。御霊地道場で拝礼行事の後、参加者たちは解脱金剛宝物館の小林彰志次長から参拝の作法や心構えなどを学びながら御霊地の各所を参拝し、一つひとつの尊さに感激を新たに。続いて、解脱金剛宝物館を拝観、金剛さまのご足跡と立教のご精神に触れ、慈悲深い御心に感謝の念を深めた。

昼食後は、大型バスにて移動。川越市の江戸時代の趣が残る街並みを散策しながら参加者同士が交流を深めた。

滋賀教区

# 日々の積み重ねから

滋賀教区では6月9日、琵琶湖のほとりにある長浜勤労者福祉センターにおいて第42回女性の集いを開催した。本部より中西好子指導員が出講し、「家族の絆、人様への思いやり」をテーマに139名が学んだ。



当日は、初めに参加者全員で亡き長老さまへ黙祷を捧げ、改めて生前中のご指導などへの感謝の念を深めた。

講話に立った中西指導員は、み教を学ぶ尊さを自覚することを促した後、「家族の絆や思いやりは毎日の生活から積み重ねられていく」と、日々の実践の大切さを強調した。

中国第1教区

# 徳積みの大切さを実感



中国第1教区では第18回女性の集いを、6月9日に鳥取県米子皆生温泉ホテルウェルネスほうぎ路にて開催した。本部より早川廣美指導員を出講に迎え、58名が参加した。開式に先立ち参加者一同で長老さまへ黙祷を捧げ一層の精進を誓った。その後、上田秀代さん（兵庫浜坂支部）より家族の姿を通して得た貴重な体験について発表があった。早川指導員からは今年の活動方針にある「思いやりの心に生きる」について講話があり、参加者一同は女性として思いやりの心を発揮することを誓い合った。

（この部分は上記のテキストと重複するため省略）

北陸教区

# 家庭の太陽を目指し研鑽

6月16日、北陸教区は福井加茂河原支部にて女性セミナーを開催し、「めざせ家庭の太陽～ほほえみの日々を送りましょう」をテーマに54名が参加した。



体験発表では、北川由記子さん（金沢長田支部）より、大家族に嫁ぐ中で苦勞を重ねた末に教えによって救われたとの発表があった。出講の皆川朋子指導員からは、「妻を家庭の太陽とするには夫からの感謝の言葉が何よりも大事であり夫からそんな言葉をもらえる妻となること、さらに徳積みに励むことが大切」との講話があった。

本部布教推進会議

# 新たな目標を明確にし、各々の力を精一杯発揮する



所信表明される岡野理事長



石野浩司先生よりご講話を頂く

室祭祀から見た三聖地巡拝の意義」と題して、「御皇室の歴史」や「日本の建国」について新たな視点に基づいた内容の濃い講義が行われた。その後、宮坂局長よりディスカッションの趣旨が説明され、「三聖地巡拝を人材育成の場に」をテーマにグループ別ディスカッションが行われた。

6月22日から23日にかけて御霊地・研修センターにて本部役職員、本部教務員、各教区長による本部布教推進会議が行われた。

新帝陛下が御即位され、令和元年の新たな御代を迎えた本年は、本会が立教100年に向けて新たな第一歩を踏み出す年。本年度の布教活動方針の「思いやり生きよう」に基づき、上半期の活動を振り返り、今後の学びと取り組みを共有し、一層の布教推進に向かうことを目的に当会議は開かれた。

まず初めに岡野英夫理事長が「新たな時代を迎えて」をテーマに「新たな御代を作り上げるためにも目標をしっかりと明確にし、そこに向かって各々の力を精一

杯発揮する努力をしていく必要がある」と述べられた。

次に演台に立った宮坂保徳教務局長からは「布教推進の今後の課題」と題する話の中で、来年の三聖地巡拝は第80回という節目の年であること、また、青年部の三聖地巡拝錬成が開催される年であることから、令和2年度本部布教活動方針と共に「三聖地巡拝に参加する」「三聖地巡拝の意義を学び伝える」「青少年を三聖地巡拝錬成に送り出す」という3つを柱とした会員実践目標を発表した。

午後からは、神宮司庁広報室係長、皇學館大学神道研究所研究員を経て、現在は御寺泉涌寺心照殿研究員の石野浩司氏より「令和の御代始における即位儀礼皇

翌日は各自でお山を参拝することから始まり、「少子高齢社会における支部づくり」をテーマに行う圏域別ディスカッションの導入として、山本和雄埼玉教区長より「青年部OB会の発足とこれからの活動」、岡部靖子本部教務員より「教区子ども会の活動」と題した活動報告が行われた。

その後のディスカッションでは圏域色の濃い議論が交わされ、休憩を挟んだ後、全体討議、質疑応答と進み、活発な意見の交換があった。

最後に岡野理事長の激励の言葉で締めくくられた会議は、正午をもって終了。岡野理事長はじめ、各教区長らは全国教区長野外研修に出発した。

## 皇居勤労奉仕

# 奉仕活動を通じ国民としての喜びを知る

6月17日から20日にかけて、本会では8回目となる皇居勤労奉仕が行われ、全国より合計34名が参加した。

すべて好天に恵まれた4日間の中で、2日目を除く3日間はそれぞれ東御苑、宮中三殿の周辺と宮殿をご案内いただいた後、奉仕活動に従事。そして2日目は赤坂御用地にてテニスコートの整備や御所周辺の清掃等、奉仕活動を行った。同日は赤坂御所に於いて新帝陛下となられ

て初の御会釈を賜り、団長の西脇武利教育部次長をはじめとした参加者らに、「お元気でお過ごしください」と御慈愛あふれる御言葉を頂いた。

最終日は、宮殿内の池の清掃と周辺の整備を行うといった貴重な機会があった。それは、近日行われる陛下と客人との会合の準備で、

宮内庁職員より「人数が多く一日で終わることができて、とても助かった」ともったいない言葉を頂いた。

参加者は4日間の作業を通して、皇居及び赤坂御用地の奉仕にお使いいただけた喜びを分かち合い、帰途についた。



## 東京第4教区・第50回洗足池弁財天例祭

# 半世紀にわたり奉賛

東京第4教区が第1回より奉賛する洗足池弁財天例大祭が5月26日に盛大に開催され、この日、第50回を迎えた。

まず、第1部奉祭の儀は、祭主・恵良彰紀千束八幡神社宮司による祝詞奏上、玉串奉奠の後、宮崎尚担任部長の先達で

拜礼行事。第2部放生会・天茶供養の儀では放鳥・放魚により長寿延命を祈念し=写真、万物への感謝と参詣客の安全や幸せを願い天茶の撒き供養を厳かに行った。

祝辞では恵良宮司が、約80年前に金剛さま、岸田英山教統と先代宮司、そして本会との縁に触れ、「お蔭で人々が憩い繁栄している」と喜びの辞を述べられた。

その後、本部出講の西村晴雄常任理事



の講話、宮崎達郎教区長の謝辞と続いた。第3部直会では、関日出夫本部相談役の発声による乾杯の後、鼓笛隊の演奏や奉納獅子舞など楽しい一時を過ごした。